

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数14万部・非売品

2022.1.20 Winter

No.
73

News



第22回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

働きたい、暮らしたい
その願いをかなえるために



障がい者雇用の 現場で—— チバリヨー沖縄

Profile

有限会社やんばるライフ(1984年創業)にて、2003年より障がい者雇用に取り組む・専務取締役。
合同会社やんばる彩葉・代表(2010年創業)。2015年にA型事業所の株式会社やんばるステーションを創業・取締役。2004年沖縄県中小企業家同友会に「健障者委員会(障害者委員会)」を設立・相談役。中小企業家同友会全国協議会障害者問題委員会・委員長

2022年5月、復帰50年(半世紀)を迎える沖縄。
アメリカの統治下にあった事と島嶼県が故に流通の負荷が大きい
ため、製造業が育ちにくかった沖縄。
復帰後、インフラ整備が急ピッチで進められ、亜熱帯の自然を求
めて訪れる観光客が増加し、観光立県へのシフトが進み基幹産業で
あった一次産業から観光産業へと大きく経済が動き、仕事も変化し
て来た様に感ずる沖縄。

50年の間で県民の仕事や障害のある方達や就労困難者の仕事も
それなりに増加はしていますが、非正規雇用者が圧倒的に多い事も
県民所得が全国ワーストワンを脱却できない一つの要因にもなって
いるように思います。富裕層も増えて二極化が進んでいるようにも
見え始め、複合的な要因はあるにしても、沖縄の子どもの貧困率は
全国平均比で3倍という実態をどう考察するのか、課題も多いです。
沖縄が社会保障県から自立経済県になる道のりは残念ながら、
まだまだ先のように思われます。さらには、現在のパンデミック、コロ
ナ禍で観光産業への打撃は計り知れず、非正規雇用者の解雇や雇
い止めも必然的に多くなっているのは否めません。中でも、障害のある
人やひとり親世帯を含む就労困難者の人達は、コロナ禍の初期段階
から対象になっている企業が数多くあります。

当然のごとく、障害者の就労支援の現場においても、清掃関連や
土産品のパッケージ等仕事量は激減しています。それぞれ、新しい仕
事の工夫をしながら乗り越えようと頑張っている事業所もありま
すが、施設・事業所のM&Aも加速し、廃業も増加しています。

私は、戦前、戦後を通して長い期間さまざまな忍耐や困難を強い
られ乗り越えて来たウチナーンチュ(沖縄人)の力をもって、コロナ禍
をバネにするパワーを蓄えて前に進むことを考えたい。

これからの世の中や、企業のありようも変化してゆく中で私たち
は何かできて、何のために、何をしなければならぬのか、情報や知
恵を共有し、しっかりと連携をして、主体感を持って取り組まなけ
れば現状を打破することはできないように思っています。

チバリヨー沖縄！

※障がいの表記について：本コラムは著者の表記を尊重しています

CONTENTS

表紙写真

第22回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の大矢運さん(右)、川上聖子
さん(左)。日本工業倶楽部大会堂にて

03

第22回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式
働きたい、暮らしたい
その願いをかなえるために

09

2021年度ヤマトグループボランティアプロジェクト
地域と繋がるボランティアを

14

利用者さんの給料増額に向かって
夢へのかけ橋実践塾活動報告



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。



受賞された川上聖子さんとご夫君（前列左）、大矢 遼さんと令夫人（前列右）。後列左より森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、山内雅喜ヤマト福祉財団理事長、長尾 裕ヤマトホールディングス(株)代表取締役社長、厚生労働省 社会・援護局 田原克志 障害保健福祉部長



受賞の喜びを語るお二人。大矢 遼さん（左）、川上聖子さん（右）



お二人の受賞を讃え、挨拶する山内財団理事長



受賞者には、正賞 雨宮 淳氏作のブロンズ像と賞状、副賞 賞金100万円の目録を贈呈しました

第22回

ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

働きたい、暮らしたい
その願いをかなえるために



ヤマト福祉財団小倉昌男賞では、毎年、障がいのある方の仕事づくりや雇用の拡大、労働環境の向上、高い給料の支給などに努められた2名の方を表彰しています。第22回の受賞者は、社会福祉法人ひようご聴覚障害者福祉事業協会の理事長 大矢 遼さんと、社会福祉法人エルム福祉会 理事・hikari no cafe 蜂巢小珈琲店 施長の川上 聖子さんです。贈呈式の様子は、YouTubeでライブ配信しました。



「SDGsの“だれ一人取り残さない社会の実現”は、まさに私たちが目指すもの。みなさんの応援の声を頼もしく感じています」と大矢 運さん



「どんな困難があろうと、ろうあ者のために頑張れる方」と手話で語る大矢さんの推薦者（一財）全日本ろうあ連盟の石野富志三郎理事長



「お二人には、これからも障がいのある方の就労に力を注ぎ、世の中を力強く牽引していただきたい」と（NPO）日本障害者協議会代表の藤井克徳選考委員

お二人に共通しているのは どんなときにも笑顔で 立ち向かう姿勢

障害者週間の12月8日、第22回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式を日本工業倶楽部（東京都）で開催しました。

山内理事長は挨拶の中で「お二人はともに長年にわたって障がいのある方に寄り添い、仕事の拡大や地

域福祉の発展に貢献されてきました。その間、経済的な危機から未曾有の災害、コロナウィルス感染拡大などにも直面されますが、希望を失わず、持ち前の明るさで乗り越えられている点が似ています」と紹介しました。

（NPO）日本障害者協議会の藤井克徳代表も「地域との強い絆を築き、どんな困難を抱えている人も来る者は拒まず受け入れられていること。つねに夢に向かってまっすぐに進み、障がいのある方と働く喜びを分かち合われていることも共通しています」と選考委員を代表し、功績を讃えました。

苦しくてもなかなか声が 届かないろうあ者のために 全情熱を傾ける

大矢さんの推薦者は、50年近くのおつきあいになると話す（一財）全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎さんです。

「大矢さんは“きこえない・きこえにくい人”の人權を守り、福祉向上や就労支援などに精力的に取り組んでいます。最初にお会いしたのは、大津市のろうあ青年大会に参加したときで、私はまだ18歳。大矢さんのたぎるような情熱に圧倒されました」と振り返ります。

大矢さんは1969年に「京都ろうあセンター」の開設に携り、その後「京都心身障害者職業相談室」を設置。職業安定所への手話協力

員設置制度の新設へとつなげていきます。

「私はセンターの一部屋を借りて新聞を発行していました。昼の食事に一緒にすると、いつも口癖のようにもっと怒れ！ 高齢や重度の障がいの者の生活をどうする。変革していく人間に若い人も関係ない」と厳しく叱咤激励されるんです。でもその声には、兄のような優しさがありました」。

1982年、大矢さんは京都府綾部市に重度重複聴覚障がい者更生施設「いこいの村・栗の木寮」を開設。10年後には高齢のきこえない人への支援の専門性を備えた全国でも数少ない特別養護老人ホーム「いこいの村・梅の木寮」を建設し、初代施設長に就任します。そして1995年、阪神淡路大震災が発生。救援に駆けつけた大矢さんは、行き場所もなく困窮するろうあ高齢者の姿を目の当たりにすると、迷うことなく兵庫県に拠点を移します。被災したすべてのろうあ高齢者の救済を掲げ、募金活動を開始。淡路島に特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」を開きました。

「職員にもろうあ者を広く採用し、暮らしの安定に力を注いでいく。そんな活動を続ける大矢さんには、たくさんの方々がいます。今回の受賞の様子も施設の職員をはじめ、たくさんの方が動画配信で見ていることでしょう。一緒に、この喜びを分かち合いたいと思います」。



「利用者さん一人ひとりの適正を把握し、働きやすい環境を整えています」と推薦者の(NPO)キャリアコーチとちぎ県北子ども・若者ひきこもり相談センターの新江 侃センター長



「お二人の取り組みが、障がいのある方たちの働く喜び、生きがいを深めることに、しっかりと繋がっていると感銘を受けました」と厚生労働省 社会・援護局 田原克志 障害保健福祉部長



「徳とは、実行してはじめて人々の幸せに繋がります。まさにそれを体現されているお二人に、約22万人の社員を代表して敬意をお贈りします」とヤマトホールディングス(株) 長尾 裕代表取締役社長



「我々が夏のカンパや賛助会員として支援しているのは、ありがたう。の言葉の価値を実感しているから。お二人も同じ思いなのだとうれしく思いました」とヤマトグループ企業労働組合連合会 森下明利会長



「職員や利用者さん、そして地域の方々の支えがあってこそ、こんな晴れやかな場所に立てているのだと感謝しています」と川上 聖子さん



見逃された方も視聴できます。



すべての暗闇を明るく照らす
障がいのある方たちの
「ヒカリ」

「しょうこちゃんもファンの多い人なんです。彼女は私の教え子なので今日もそう呼ばせていただきました」と川上さんの推薦者で(NPO)キャリアコーチとちぎ県北子ども・若者ひきこもり相談センター長の新江 侃さん。

川上さんの父親も元教師です。障がい者教育に力を入れ、1984年に退職金を投じ、教え子の卒業後の支援のために大田原市で初めて「エルム共同作業所(エルム福祉会の前身)」を立ち上げました。

「両親のお手伝いがしたいと、しょうこちゃんは、障がい者の住まいの場グループホームの地域生活マネージャーや高齢者事業の施設長を歴任してきました。そして、2005年にエルム福祉会の理事になると、障がいのある方が自立して生活するた

めには働いて稼ぐ訓練が必要」と hikari no cafe オープンしたんです。

その名称は「どんなに小さな光でも暗闇を照らす力を持っている」との父親の思いを受け継ぎ、名付けています。

「しょうこちゃんは、利用者さんにも職員にも平等に接し、いつも『ありがとう』の感謝の声が行いながら、力を合わせて働いています。また、地域の清掃活動などにも積極的に参加することで、地元の方たちからの理解・信頼も深めました。いまでは地元農家や自治会組織とも良い協力関係を築いています。カフェも3号店まで拡大していますし、これからも利用者さんと地域の光となるリーダーとして活躍してほしいです」と伝えました。

そんなお二人の活動と施設の様子を動画で紹介したあと、山内理事長が正賞の兩宮 淳氏作のブロンズ像「愛」と賞状、副賞賞金100万を贈呈。お二人を陰で支え続ける令夫人とご夫君には、花束をお贈りしました。

続いて3名の来賓より祝辞をいただき、最後は両受賞者のスピーチへ(POBに抜粋)。

これまでの道のりを振り返りながらお話しされる言葉には、協力いただく方々と同胞への感謝の気持ち、そしてどんな苦勞が待ち受けようとも決して迷うことなく進んでいく、固い決意が込められていました。



入居者が一同に集まって、「ふくろうの郷」の朝礼



「ふくろうの郷」で大矢さんの案内を受ける山内理事長



「中川原高齢者・障害者地域ふれあいセンター」(左)、ふるさと納税の返礼品に採用されているおのころやのクッキー



働く場やデイサービスなどを備える複合施設「神戸長田ふくろうの家」



高齢ろうあ者の これまでの苦労に寄り添って..

社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
理事長 大矢 暉さん

11月8日、山内理事長は、大矢さんの開設された兵庫県洲本市にある特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」を訪ねました。

被災地のろうあ者の命と暮らしを守るため淡路島へ

大矢さんは、京都で「きこえない・きこえにくい人たちが、社会からはじき出されてしまうのはおかしい」とさまざまな運動を続けてきた方です。兵庫県に活動拠点を移したきっかけは、阪神淡路大震災でした。

「震災前までは家族と支え合い生きてこられたろうあ者の生活が、住む家もちも崩壊してしまいました。しかも高齢者の中には、震災では無事だったのに、仮設ハウスなどで人知れず亡くなられた方が何人もいたのです。兵庫県のろうあ者は「困ったときに、病気のときにきちんと支えてくれる場所を作ってほしい」と長年期待してきました。私は「いまこそそれを作るときだ」と決意したのです」。

早速、聴覚障がい者の社会参加と平等、ノーマライゼーションの実現を目指す(社福)ひょうご聴覚障害者福祉事業協会を設立します。

「人は歳を取れば透析や胃瘻などの病気を抱えてしまうけど、そんな高齢ろうあ者はなかなか受け入れてもらえません。だから自分たちで作るしかない。でも建設には約5億円の資金が必要でした。地域の方と一緒に地道に募金活動をし、2006年にやっと希望の高齢ろうあ者の特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」を開所できたのです」。

さらに、2010年に就労継続支援B型事業所「おのころの家」を、その2年後には閉校になった中学校を再利用し「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター」も開所します。

「聾学校を出ていない方もたくさん

いましたから、そういう方の居場所を作ったかった。みんなで田畑を借りて淡路島の名産のタマネギ作りをはじめたんですよ」。

試食させていただいたタマネギスープは、感動的な美味しさでした。

**互いを磨き合える場所
でマイナスをプラスに変える**

「ふくろうは「福と聾」。ろうあや障がいがある人たちがみんな力を合わせて、一緒に幸せな場所をつくっていく、そんな思いを込めています。だから、職員にはろうあ者もいて、一緒に働きながら自分の存在理由を見だし、活躍しているんです」。

ヘルパーの川満幸子さんは「きこえにくい私でも力を発揮できるように、いろいろな環境も整えていただいています。私はろうあ者の気持ちは良

くわかりますが、きこえている入居者の思いも理解しなければなりません。そこは他の職員と協力し合い、あなたにも喜んでもらえる支援を目指しています」と話してくれました。

「マイナス同士も掛け算にすればプラスになりますよね。いろいろな個性、立場の人たちが手を取り合い、一緒に働き、互いを磨き合っている」と大矢さん。

そこで働く場として2011年にベーカー「おのころ屋」を、2020年には地域密着型の複合施設「神戸長田ふくろうの杜」も開所。また自立生活の場として、神戸にグループホームも新設。日本中のきこえない人たちに、夢と生きる自信を与える活動の旗手として、大矢さんは今日も走り続けています。

大矢さんの兵庫での活動内容

暮らしの場

特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」、障害者グループホーム「神戸平野ふくろうの樹」ほか

働く場

就労継続支援B型「おのころの家」、就労継続支援B型「共同作業所神戸ろうあハウス」ほか

高齢ろうあ者

デイサービス

「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター」ほか



ここがカフェ？ 年間35万人来店される蜂巣小珈琲店の前で、推薦者の新江さん（左）、川上さん、山内理事長



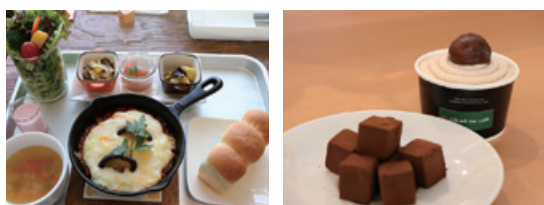
広々とお洒落で明るい空間には、子どもの頃に帰れるレトロな演出も



財団の助成で改装したSweets工房（左）、パン工房で作るクッキーやパンは利用者さんの手づくり



利用者さんがその日のランチを細かく説明、サーブをしていただきました



懐かしいアルミのプレートに載ったボリュームたっぷりのランチ（左）、利用者さんのアイデアが商品になったモンブランと生チョコ

DATA

社会福祉法人エルム福祉会

hikari no café蜂巣小珈琲店／就労継続支援A型：19名、2020年度平均工賃68,015円、就労継続支援B型：17名・2020年度平均工賃17,315円、ほかhikari no café本店、大田原市庁舎店など働く場を広げている

利用者さんと地域の方の夢が詰まったカフェ

社会福祉法人エルム福祉会 理事

hikari no café 蜂巣小珈琲店 施設長 川上 聖子さん

11月1日、那須塩原駅から車で約30分。田園風景が広がる中にポツンと見えた旧蜂須小学校が川上さんのカフェでした。

思い出で一杯の古い校舎を
お洒落で温もりあるカフェに

廃校となった小学校をリノベーションしてオープンしたhikari no café 蜂巣小珈琲店。「築90年になる木造校舎は、地元の方たちの思い出がいっぱいに詰まっています。その温もりと形を大切にしながら、地域のコミュニケーションスペース、そして利用者さんたちが生き生きと働けるカフェ、スイーツ工房へと生まれ変わらせました」と川上さん。

職員室や校長室の壁や天井を取り払い広々とした空間を作ると真っ白に塗り替え、大きな窓から日差し一杯のカフェに。使い古したオルガンや黒板なども飾り、ノスタルジックでお洒落な雰囲気仕上げました。「利用者さんと職員みんなでアイデアを出し合い、内装からメニュー

までこだわり抜いています。どうぞ召し上がってください」。そういつて出された料理には、利用者さんが工房で焼いたパンや焼き菓子、地元農家が育てた新鮮な野菜に珍しい古代米も。食器類には懐かしい先割れスプーン、サラダやデザートの入れ物はビーカーと、目でも楽しめる工夫が随所に凝らされています。

利用者さんが幸せになる姿を
地域の方と一緒に応援したい

「カフェをはじめたのは、パンやお菓子を作る人、接客、販売を行う人と、みんながやりたい仕事で生き生きと活躍できる事業にしていきたいかったからです。それに「ありがとう。美味しいよ」そんな言葉を聞くことは、一般就労していくときの自信にもなっていくますからね」。

川上さんは、利用者さんが「ケーキも作りたい、モンブランをお店に出したい」と言ってきたときも「利用者さん同士で結婚し、自立して暮らしていきたい」と相談してきたときも「やってみましょう」と温かく見守り後押ししてきました。

「亡くなった母が、そうやって利用者さんをずっと応援してきた姿が、私の中で息づいています。普通なら難しいとあきらめてしまうことも、やってみたいと思う強い気持ちがあれば、きっとかなえることができる。人生を開いていく、幸せをつかんでいく利用者さんの姿を見ることが、私たち支援者にとって最大の喜びです。『やっぱりこの仕事って尊いよね』って、職員と一緒に話すんです」。

hikari no caféの「ヒカリ」は、当時入院中だったお父さんから贈ら

れた言葉です。「利用者さんが働く姿を見ることが、周りの意識もきっと変わっていく。お前は、障がい者の未来を、地域を照らすヒカリとなれ、と病床で父が語ってくれたんです」。

そんな両親の思いを受け継ぎ頑張る川上さんの姿に、地域の方の気持ちも一つになりました。開店前、広い駐車場の掃除をしていたのは、職員ではなく近所の方たちです。

「障がいのある人たちの生き様を身近で見ることで、地域の方が応援者にならなりました。だからこそ、利用者さんだけではなく、地域の方が望んでいることにも耳を傾け、実現していくことが大事なんです。お互いに支え合う、豊かな気持ちになれる、そんな関係をずっと大切にしていきたいと思っています」。

受賞の言葉

私たちが応援してくれる 22万人の仲間がいました



社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
理事長 大矢 遼さん

1968年（社福）京都府ろうあ協会入職。1991年 京都市聴覚言語障害センター副所長就任。翌年 特別養護老人ホーム・いこいの村梅の木寮を開所、施設長就任。1995年 阪神淡路大震災が発生。被災地のろうあ者を守るため兵庫県へ移住。2004年（社福）ひょうご聴覚障害者福祉事業協会設立。2006年 特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷を開設、施設長就任。2010年 B型事業所・おのころの家を開所。2014年（社福）ひょうご聴覚障害者福祉事業協会、理事長就任。2020年神戸長田ふくろうの杜開所。

きこえないのは不幸と
だれが決めたのだろう

本日は、私の人生の中でも特別な日となりました。淡路島の人たちと一緒に手を取り合い歩んできたことを、たくさんの方に評価いただき、とてもうれしく思います。贈呈式の様子をライブ配信していただきましたので、式の最中にも、仲間たちからお祝いのメールが続々と届きました。そしてもう一つ、私がとてもうれしかったのは、約22万人のヤマトのドライバーのみなさんが、私たちを応援してくれているということです。一つひとつの荷物に託したお客様の気持ちを大切に仕事に取り組みみなさんの思いは、

私たちが仕事に臨む気持ちと同じだと感じています。SDGsには「だれ一人取り残さない、排除しない社会」を作るとあります。これは私の理念とまったく同じです。「きこえない・きこえづら」いからあなたは不幸だ」。そんな烙印を心に押され、もがき苦しむ仲間たちに、働く喜びを得られる場所と、安心して暮らせる場所をつくること、が、私の人生の使命です。

人は生き甲斐を持って働ける仕事と出会えたとき、本当の幸せをつかむことができます。もともとたくさんいるろうあ者が「働く達人」となれるように、私はこれからも応援し続けていくつもりです。

受賞の言葉

父と母のことが書かれた 表彰状に感激しました



社会福祉法人エルム福祉会 理事

hikari no café 蜂巢小珈琲店 施設長 川上 聖子さん

1985年 栃木県立那須養護学校講師。1991年に 知的障がい者地域生活ホーム、2000年に（社福）エルム福祉会障がい者グループホーム待降寮の世話人。2004年 栃木県福祉ホーム・グループホーム世話人連絡会会長、（社福）エルム福祉会 障がい者グループホーム待降寮 地域生活マネージャー就任。2005年（社福）エルム福祉会の理事就任。2012年 地域密着型介護保険サービス事業所たじまの杜施設長。2016年 多機能型障がい福祉サービス事業所hikari no café蜂巢小珈琲店施設長。2019年 hikari no café 大田原市庁舎店の施設長兼ゼネラルマネージャー。同年「栃木で輝く女性20人」に選出。

利用者さんの成長が
背中を後押ししてくれる

「この世界を生きづらく感じている人すべてが、お互いに認め合い、社会参加していけるように」。父と母の願いを受け継ぎ、私たちは「地域のヒカリとなり、福祉のヒカリとなる」をビジョンに掲げ、活動を続けています。

本日はいただいた表彰状には、そんな両親のこころまで書いていただけてあり、思わず涙がこぼれそうになりました。

私がこのような晴れやかな場所に立っていられるのは、職員みんなと心を一つに頑張ったからこそ。その背中を力強く押し続けてくれているのが、利用者さんの成長

長していく姿です。

以前はまったく仕事に見向きもしていなかった方が、カフェで働きはじめることとスキキと実力を発揮。朝から大忙しで私たちはハトハトになつても「忙しいって良いですね」とニコリ笑っているんです。

そんな姿を見ていると、働くって素晴らしいなとうれしくなります。もう一つは地域の方々の応援です。hikari no caféをオープンしたとき、地域のみなさんが「頑張っているね」と率先して来店してくれました。これからは、もっと多くの方に喜ばれる料理とお菓子を考案し、全国の方々にも販売していけたら素敵だと考えています。

農業編

みのり彩園(札幌市)



無門福祉会(豊田市)



おもや(栗東市)



2021年度

地域と繋がる ボランティアを

ヤマトグループボランティアプロジェクト

地域福祉活動編



財団では、ヤマト運輸労働組合と連携し、社員参加の地域と繋がるボランティアプロジェクトを進めてきました。ヤマトグループのみなさんに、障がい者施設がどこにあるか、どんなことをしているのかを知ること、地域で身近に繋がっていただけではないかと考えています。

企画は「農業編」と「地域福祉活動」の二つです。農業編は北海道、愛知、滋賀の3カ所を実施。地域の福祉活動に貢献するへヤマト繋がるプロジェクトでは、横浜を中心とした障がい者施設の利用者さんに楽しんでいただきました。

青空の下、北海道でじゃがいも、愛知県と滋賀県でさつまいもの収穫をお手伝いしました!!

みんなの力で1週間分の仕事が1日で完了

(NPO)手と手 みのり彩園(北海道札幌市)2021年10月9日

札幌市屯田町にあるみのり彩園では、農業も肥料も使わない自然栽培で、トマトやじゃがいも、豆などが育っていました。今回はじゃがいもの収穫をお手伝いです。

札幌支部を中心に、地元のヤマト運輸屯田営業所のみなさんも家族で参加。利用者さんに芋掘りの指導を受けながら、みんなで収穫した成果は、なんと、いつもの5倍でした!! みのり彩園の柳瀬さんは「自分たちでやったら1週間かかる作業が1日でできました。おかげで、明日からは違う畑で豆の作業ができます」と、話してくれました。

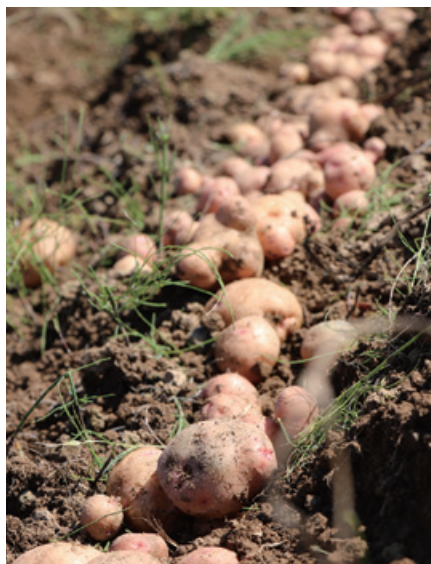
収穫したじゃがいもは、ほくほくしてコロケやサラダに合う「さやかかね」という品種です。早速、みのり彩園のピザ窯で焼いたじゃがいもを昼食の時にいただきました。

(NPO)手と手 みのり彩園

札幌市北区屯田町1054番地 TEL090-2070-3255

屯田町に1.3ha、篠路町に2.7haの農園で、自然栽培を行っています。直売所では、野菜をはじめ、加工品なども販売しています。

春の植え付けや秋の収穫をお手伝いする「農業編」は、みのり彩園(北海道札幌市)、無門福祉会(愛知県豊田市)、おもや(滋賀県栗東市)の自然栽培を行う3施設にヤマト運輸労働組合の札幌支部、三河支部、滋賀支部の組合員がボランティア参加。コロナ禍のため、春の植え付けには参加できませんでしたが、秋の収穫にはご家族と共に参加し、芋掘りに汗を流しました。



これからも続けていきたいボランティア

(社福)無門福祉会(愛知県豊田市)2021年10月30日

無門福祉会の畑に集合したのは、三河支部からご家族を含めて23名。まず、昼食でいただくく豆、ニンジンの間引き作業からスタートしました。メインの作業はさつまいもの収穫です。マルチ(畑を覆うビニールシート)をはがし、さつまいもの蔓を切り、スコップで掘り起こしていくと大きなさつまいもが顔を出します。

三後副委員長は作業の終わりに、「大人も子どもも利用者さんも、みんなで声を掛け合って、同じ作業をして笑顔がたくさん生まれた。支部として、1回だけではなく続けてやっていきたい」とメッセージをいただきました。無門福祉会でとれた野菜は、中部ゲートウェイの食堂で提供しています。

(社福)無門福祉会

豊田市高町東山7-43 TEL0565-45-7883

2015年から自然栽培を本格的にスタートし、6ha以上の田んぼや畑でお米や野菜を育てています。毎月第2土曜日にはむもん市を開催。利用者さんたちが作った農産物や加工品などを販売しています。



青空の下で、おもや特製イノシシ汁と焼きいものご褒美

(NPO)縁活 おもや(滋賀県栗東市)2021年11月6日

春に視察で滋賀支部のメンバーと田植えに行ったのがおもやです。今回は日程が合わず、その田んぼでの稲刈りはできませんでしたが、盛りだくさんのイベントとなりました。さつまいも掘り、里芋掘り、枝豆(黒豆)の収穫。長いさつまいも畑の畝に、それぞれ3〜4人のチームになって芋掘り開始です。湿気を帯びた土に、スコップが入らずじけそうになりながらも、頑張つて収穫しました。昼食は収穫した枝豆と、この日のために特別に用意していただいたおもや特製のイノシシ汁。畑で焼いた甘くて飴色になった焼きいもで、お腹もいっぱいになりました!



(NPO)縁活 おもや

栗東市霊山寺1-3-24

TEL077-598-5368

季節の野菜やお米、果樹などを自然栽培で取り組んでいます。おもやの運営するオモヤ★キッチンでは、おもやで作る農産物を販売。月に一度は「くさつファーマーズマーケット」にも出店しています。

横浜の障がいのある方と子どもたちに笑顔をお届ける



ヤマト運輸労働組合員が オンラインで参加しました

ヤマト運輸労働組合青年部のみなさんが、地域福祉のボランティア活動に貢献。大学生とともに、横浜の障がいのある方や子どもたちと楽しく遊ぶ企画に、オンラインで参加しました。

10月から12月まで、三つの企画チームごとにリモートでミーティングを重ね、クリスマスの飾りやゲームパーツを制作し、子どもたちに送りました。他にもタップダンスの公演にもオンラインで参加し、子どもたちと一緒に楽しい時間を共有しています。

この「ヤマト繋がるプロジェクト」は、(NPO)アクションポート横浜(以下、APY)とのコラボ企画です。APYは、若い世代が地域社会づくりに参加する機会をさまざまな組織と連携して提供しています。「コロナ禍でも気軽に地域の福祉活動・町おこしに参加できるように、社会人と学生が協働することで多くの気づきを得てもらいたい」。そんな主旨に各団体や施設が賛同し、この企画が実現しました。

参加した ヤマト労組 組合員の声

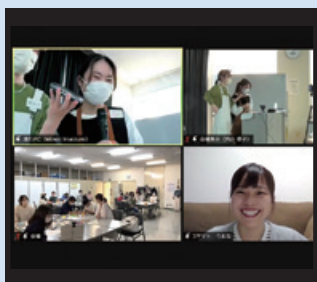
「オンラインで参加できたのが良かった。次は施設や会場にも訪ねてみたい」

「リモートでしたが、子どもたちと一緒に制作した楽しい時間は忘れられません」

「初めてボランティアに参加。みんなで力を合わせ、町づくりに繋がる楽しさと意義を知ることができました」

「音楽にダンス。学生たちと一緒に企画を立てていくのが面白かったですよ」

「画面を通して子どもたちの喜んでくれている姿がとてもよくわかり、参加した甲斐がありました」



コロナで大忙し?! 慌てんぼうの サンタさんを救え!

障害児者サークルラビッツ

「もうすぐクリスマスなのに」コロナの影響でツリーの飾りつけを手伝ってくれるトナカイさんが少なく、サンタさんは困っています。そこで、ラビッツの子どもたちに飾りつけを手伝ってほしい。そんな手紙と材料が届いた物語にしました。10月30日、組合員はオンラインでツリーの飾り制作に参加。11月27日の障害者スポーツ文化センター横浜ラポールでの飾り付け、12月1日から一般公開の様子も画面越しに拝見しました。



作って・送って・繋がる

磯子区障害者地域活動ホーム

オンラインで磯子区障害者地域活動ホームと交流。10月27日に利用者さんと一緒に「おまじないグッズ」を制作、開封し、ネーミングも考え、楽しい時間を共有しました。また「タップダンスワークショップ」では、大学生と一緒に企画・準備を担当。11月10日の横浜市磯子区民文化センター・杉田劇場での公演にはオンラインで参加し、来場した障がいのある方たちと同じ空間でタップダンスの世界を堪能しました。

ついでにあそび

洋光台地域ケアプラザ

11月13日、オセロ・ジエンガ・神経衰弱のゲームパーツを、普段使用するものよりも巨大なサイズで制作しました。そのゲームを11月21日に洋光台地域ケアプラザへ。子どもたちを中心に、非日常的なゲームで楽しく遊んでもらいました。その姿をオンラインで共有することで地域との繋がる喜びを実感。その後は、近隣地域の施設などにもゲームを送り、繋がり輪を広げています。



学生たちの感想

「ストーリー性のある楽しい企画になり、みんな大喜びでした」

「ヤマトの社員の方たちと念入りに事前準備を行ったおかげで、素晴らしいイベントになりました」

「私はオンラインで参加。最初は不安でしたが、いろいろな方と交流でき、貴重な体験となりました」

「子どもからお年寄りまで参加できるルール作りは、良い勉強になりました」

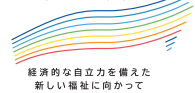
「対面とオンライン。それぞれの役割分担をうまくまとめてくれた運営スタッフに感謝しています」



利用者さんの給料増額に向かって

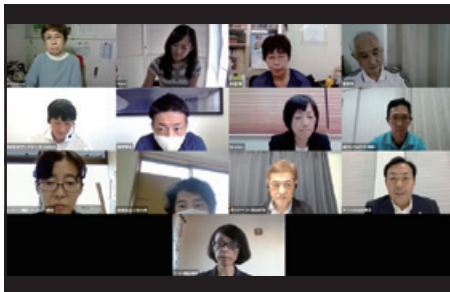
夢へのかけ橋 実践塾活動報告

夢へのかけ橋
プロジェクト



第4期新堂塾 中間報告会(オンライン) 10月4日

職員の意識の変化が、成果への鍵



10月4日、オンラインによる新堂塾中間報告会を行いました。コロナ禍で塾生施設へ出向いての勉強会がなかなか実施できない中、塾生がそれぞれに取り組んできた成果や課題を発表しました。入塾時の2019年9月から売上も工賃も約2倍になった塾生、コロナ禍で観光が落ち込み、新たにDM事業を始めた塾生、仕事を整理して柱の事業を決めた塾生など、成果の出た塾生に共通しているのは、「職員の意識の変化」でした。

新堂塾長は「みなさん、やらなくてはならないとわかっていることをすぐにやれていない。具体的に、すぐに組み込みましょう」。菅野アドバイザーは「下期は、この塾を通して何を学んで行くのか焦点化してほしい」とアドバイス。山内理事長は報告会の最後に「厳しいご指摘を受けたかもしれないが、へこたれずに頑張ってください。小倉昌男さんがいつも『やればわかる』と言っていた。うまくいくこともいかないことも、やらないとわからない。実践あるのみです」と、メッセージを送りました。

第3期楠元塾 中間報告(オンライン) 11月4日

利用者さんのためにはじめた仕事、頑張ってください

楠元塾の中間報告は、それぞれの発表に対して、楠元塾長と山内理事長からコメントをいただきながら進めました。コロナ禍で新たな営業に取り組み、工賃向上の成果を出した塾生、入塾時から1日あたりのお弁当製造が2倍になった塾生、厨房の改装を行った塾生、厨房の建設設計中の塾生もいます。

楠元塾長は総評で「コロナ禍でも売上やお弁当の個数もなんとか伸びてきた。でも、原価率が高い。売上をあげれば、仕入れる量が増えて、仕入れ単価を下げられる。原価率が高いと工賃に回らねえ。仕入と献立、棚卸しを一生懸命考えてください。利用者さんのために始めた仕事ですから頑張ってください。山内理事長は、「営業というのは『お客様を増やすだけでなく、原価を下げお弁当の品質を上げていく』というのをセットでできるようにすることです。」とアドバイス。最後に全員で『がっちりポーズ』をとって目標達成を誓いました。



農福連携実践塾

見学勉強会in滋賀

10月25・26日



新事業として検討中のぶどう園(おもや)



整備され、緑いっぱいのハウス(華菜屋)



昨年の10月、農福連携実践塾の見学勉強会を滋賀県にある「おもや」と「華菜屋」で実施しました。おもやの働く場所は、自然栽培で取り組む野菜や米作りの圃場、加工、オモヤ★キッチン(レストラン)の3カ所。今回は新事業として検討中のぶどう園もあわせて見学しました。5反の広さに生食用、ワイン用のぶどうの木が植えられています。講師の林さんは「おもやのビジョンの中で考えて、作ったぶどうをどうするか、どこに売るかを想定してはじめての方が良い」。熊田塾長は「設備が整っているから事業所内で調整し、やるべきことと、やりたいことを進めていった方がよい」とアドバイスしました。

華菜屋は雨の日も作業ができるハウスでの水耕栽培を利用者さんの仕事と決め、4年をかけてハウスを整備してきました。近くにある道の駅がメインの販売先。年間を通して出荷数をどう増やしていくかが現在の課題です。ハーブをはじめどこに商機があるのかわからない中で取捨選択をしながら野菜の栽培を進めています。

YWF TOPICS

「新型コロナウイルス感染症対応臨時助成金」贈呈式 104件の応募から35件に助成先決定



新型コロナウイルス感染症対応臨時助成金の贈呈式を、2021年10月5日・6日の二日間にわたり、オンラインで開催しました。贈呈式には35贈呈施設の代表者をはじめ、ヤマト運輸から地域統括執行役員、EX推進部、労働組合本部、各支部委員長に参加いただきました。

最初に山内理事長から「新型コロナウイルスが広がり、経営的にも厳しい状況が続いています。財団で少しでもお手伝いができればと、臨時助成を企画しました。コロナの状況下ですぐに動けるよう、条件も広く応募いただけるように設定し、助成総額も当初の予定から大幅に引き上げ7,000万円超となりました。助成金はヤマトグループ22万人の志、会社からの寄付と、労働組合のカンパニア運動で集めていただいたものが源となっています。助成を元にコロナに打ち勝って、頑張っていたください」とみなさまに向け、あいさつを行いました。

その後、贈呈先事業所から自己紹介と助成で実行する事業を説明。最後に労働組合の小野崎副委員長から「助成金がみなさまの元へ迅速に届け活用され、以前にも増して地域との繋がりを広げていただき、利用者さんの支援、工賃アップにつなげていただきたい」と激励のメッセージを送りました。

全Aネット 就労支援セミナーin松山 どうする？ どうなる？未来のA型



松山の会場から

「どうする？ どうなる？ 未来のA型」と題し、2021年10月16日に松山（愛媛県）で就労支援セミナーを開催。会場とリモートをあわせて、約100名が参加しました。

障がい者雇用を検討する超党派の国会議員連盟（インクルーシブ雇用議連）が、A型・B型を含めた将来の働き方について1年半をかけて議論をしてきました。新たな体系の提案や進捗状況など、市民側団体として長く議連に関わるきょうせん専務理事の藤井克徳氏と法政大学名誉教授の松井亮輔氏が対談の形で解説。対談のナビゲーターである久保寺全Aネット理事長の「A型事業では平均労働時間からスコア方式になり、どのように活用していくか、その段階に来ている」という話から、雇用と福祉の縦割り行政の弊害、就労支援体系など、歴史的な背景を含め議論されました。その後、全Aネットの事業である「優良A型認定事業所」の8事業所が認定発表、「共同受注事業」の経過を報告されました。

また12月9日にはA型のスコア方式の新基準について、厚生労働省からの説明、A型認定事業の資金基準について、オンラインのみのミニセミナーも開催。ヤマト福祉財団は全Aネットの活動を支援しています。

2021自然栽培パーティ感謝祭in埼玉 11月23日



埼玉復興のオリーブ畑から、YouTubeでライブ配信されました



2021年11月23日、新嘗祭の日に埼玉復興（埼玉県）のオリーブ畑をメイン会場として、全国の仲間をオンラインでつなぎ、自然栽培パーティ感謝祭がYouTubeで配信されました。

今年も盛りだくさんのプログラムです。第2会場では1時間で1万本の玉ネギの苗を植え付ける「玉ネギチャレンジ」。農福師さんを讃える3回目の「自然栽培パーティアワード」では、18人の方が表彰されました。農福師の方と、奇跡のリンゴの木村秋則さんが自然栽培について語り合うコーナーもあります。「水耕栽培の野菜が伸びないのはなぜか」との問いに木村さんは、「種にも原因があるので、あなたが悪いわけではない。元気がないときは苗に話しかけてみてください」。草刈りの大好きな農福師の「青森の木村さんの畑で草刈りをしたい」という声に、木村さんも大喜びです。

財団の山内理事長は「自然栽培パーティが世の中を支えていく、利用者みなさんにとってなくてはならない存在であり、地域みなさんのお役にも立っています。農業を通して社会課題を解決するために、これからも頑張ってください」とビデオメッセージを送りました。

チバリョー！ 沖縄 コロナ禍をこえて 2021年度障がい者の働く場

パワーアップライブストリームin沖縄 同時文字通訳あり

2022年2月4日（金）13:00～16:00 YouTubeライブ配信



コロナウイルス感染拡大は沖縄県に大きな健康被害をもたらしました。経済の牽引役だった観光産業も低迷し、県民に計り知れない影響を与えています。障がいのある人もない人も共に手を携えて未曾有の困難を乗り越えるために、いち早く行動を起こして沖縄の障がい者の働く場の活性化を目指します。

主なプログラム

- トークセッション コロナと向きあった2年間を振り返る
- ビジネスマッチングサイト「ゆいジョブ！」の開設、紹介
- 障がい者の働く場「ゆいジョブ！」マルシェ開催
2月5日（土）・6日（日）イーアス沖縄豊崎



ボストン美術館所蔵

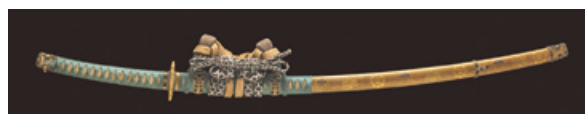
THE HEROES 刀剣×浮世絵—武者たちの物語



歌川国貞 「茨鬼 辰橋綱逢変化」
文化12年(1815)頃 Bequest of Maxim Karolik



加納夏雄 「蠟色塗鞘打刀拵 牡丹図鐙 牡丹図揃金具」
江戸時代～明治時代(19世紀) William Sturgis Bigelow Collection



「金梨子地家紋散糸巻太刀拵」
江戸時代(17世紀) Charles Goddard Weld Collection
Photographs © Museum of Fine Arts, Boston



「橋弁慶図鐙 銘 連行」
江戸時代(19世紀)
William Sturgis Bigelow Collection

DATA

開催期間 ▶ 2022年1月21日(金)～3月25日(金)
休館日 ▶ 会期中無休
開催場所 ▶ 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)
アクセス ▶ 東京メトロ日比谷線「六本木駅」1C出口徒歩3分
(コンコースにて直結)
都営地下鉄大江戸線「六本木駅」3出口徒歩6分
都営地下鉄大江戸線「麻布十番駅」7出口徒歩9分
東京メトロ南北線「麻布十番駅」4出口徒歩12分
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5出口徒歩10分
開館時間 ▶ 10:00～20:00(火曜日のみ17:00まで)
最終入館は閉館30分前まで

観覧料 ▶ 混雑緩和のため、事前予約制(日時指定券)を導入しています。チケットに関する詳細・最新情報は展覧会公式サイトをご確認ください。
2022年1月8日(土)から、展覧会公式サイトで販売します。

	一般	大学生・専門学校生	高校生・小中学生
日時指定券	2,100円	1,500円	1,000円

※障がい者手帳をお持ちの方とその介助者(1名まで)は日時指定料金の半額。
※お申し込み完了後のキャンセル、日時変更、払い戻しはできません。
※当日券も若干のご用意がありますが、会場の混雑具合によりお待ちいただく場合がございます。当日券料金は、日時指定券と同額です。

日本美術コレクションを誇るボストン美術館から日本初出展

武者絵は「平家物語」のような軍記物語や武勇伝説に登場する英雄を描いた絵画です。浮世絵の祖といわれる菱川師宣から、江戸後期の歌川国芳、明治期の月岡芳年まで、多くの浮世絵師が武者絵を手がけました。源頼光、源義経、上杉謙信、武田信玄などの武将、スサノオノミコトの武勇、巴御前のような女武者の奮戦などが描かれています。

本展は世界最高水準の日本美術コレクションを誇るボストン美術館が所蔵する美術品から出品。同館は約10万点の日本美術を所蔵し、日本以外では質・量共に世界一のコレクションです。日本文化に深く傾倒したウィリアム・S・ビゲロー(1850-1926)をはじめとする日本美術研究の創始者たちが収集した個人コレクションを中心に形成され、その後も多くの寄贈によってコレクションが拡充されています。

刀剣と浮世絵から武者たちの物語を紹介

ボストン美術館で所蔵される浮世絵版画コレクション約5万点から、菱川師宣、歌川国芳など有名絵師が描いた「武者絵」の118点が日本初出展となります。源頼光の「土蜘蛛退治」や、牛若丸と弁慶の「五条橋」など、武者絵と共通のイメージを持つ鐙27点も出展。武者絵と鐙を並べて展示し、武者＝英雄たちの活躍を紹介します。

同館所蔵の約600口の刀剣コレクションからは、平安時代～江戸末期まで日本刀の歴史を概観できる作品を20口厳選して紹介。武者絵をよりわかりやすくご紹介するため、国内の刀剣も特別出品されます。

会場では、絵本作家・漫画家の関口シュン氏による武者絵の4コマイラストも掲示。世代を問わず武者絵の世界を楽しめるように工夫されています。

本展はヤマト運輸株式会社が作品の輸送・展示を担当しています。

主催 ▶ 日本経済新聞社、ボストン美術館、テレビ東京、BSテレビ東京、森アーツセンターギャラリー
協力 ▶ 日本航空
後援 ▶ アメリカ大使館
問い合わせ先 ▶ 050-5542-8600(ハローダイヤル)
展覧会公式サイト ▶ <https://heroes.exhn.jp/>
巡回情報 ▶ 新潟県立万代島美術館(予定)
4月23日(土)～6月19日(日)
静岡市美術館
7月2日(土)～8月28日(日)
兵庫県立美術館
9月10日(土)～11月20日(日)

今年もスワンのケーキにご協力いただき、ありがとうございました

スワンのケーキでうち時間を盛り上げていただけましたでしょうか。
おかげさまで昨年12月に販売したクリスマスケーキは100,693個となりました。ヤマトグループのみなさま、ご協力に感謝申し上げます。
これからもみなさまに喜んでいただけるよう、スタッフ一同邁進して参ります。お近くのスワンをどうぞよろしくお願いいたします。

株式会社スワン

